

成果指標設定調書

【成果指標の設定】

成果指標設定年度 令和2 年度

市町村名	本庄市、美里町、神川町、上里町			
提案事業名	本庄地域定住自立圏 圏域内周遊サイクルルートマップ策定事業			
事業期間	令和2 年度	～	令和2 年度	
事業の必要性、目的	<p>本庄地域は江戸時代に世界で初めて自転車機能を有した乗り物「陸船車」を開発した庄田門弥の出身地であるため「自転車発祥の地」とされている。また1940年に開催を予定されていた東京オリンピックにおいて、自転車競技の折り返し地点の候補とされていた地域である。</p> <p>そうした自転車に纏わるルーツを持ち、なおかつ日本最長のサイクリングルートである利根川・江戸川サイクリングロードや、陣見山に連なるヒルクライムルート等起伏に富み様々な景観を楽しめるルートを持つ本庄地域において、本市を中心市として形成している「本庄地域定住自立圏」の枠組みを利用しルート等の検討を行い、圏域内交流人口の増加を目的とした観光スポット等ランドマークを巡るルートマップを策定する。</p>			
成果指標	(成果を検証する指標)			
	圏域4市町における観光入込客数			
	(成果検証の具体的な方法)			
	埼玉県で毎年度実施している「観光入込客統計調査」における圏域の年間観光客数を集計する。			
	(上記の指標を設定した理由)			
	本事業実施により、圏域への集客がどの程度あったのかを把握できるため。			
	(成果の目標値)			
	現状値 (H30年1月-H30年12月)	1,767,078人	目標値 (R3年1月-R3年12月)	1,820,621人
	(施設建設等の場合)			
	年間利用者数(目標)(人)		稼働率(目標)(%)	
	住民への公表方法及び特記事項	構成市町の公式ホームページでの掲載や、また市町の施設や新幹線本庄早稲田駅構内の「埼北未来空間」等にマップを配布し周知を図る。		

【成果指標と構成事業の関連性】

令和2年度 構成事業

構成事業名	概要・成果指標との関連性	事業費(千円)
① 圏域内を巡るサイクルルートマップ策定事業	ソフト 定住自立圏の枠組みを活用し、圏域構成町担当者とルート等の検討を経て圏域に点在する観光名所等ランドマークをサイクリストが周遊できるような回遊性の高いサイクルルートマップを策定する。 策定したサイクルルートマップを積極的にPRし、圏域外からサイクリストを呼び込むことにより、圏域の交流人口が増え、地域活性化につながっていく事が見込まれる。	3,300
② 圏域内ランドマークへのサイクルラック設置事業	ソフト サイクリストが気軽にランドマークに立ち寄り、なおかつ休憩できる環境を整備するため、ルートマップ上のランドマークへサイクルラックを設置する。 当事業により、サイクルルート利用者の利便性の向上が図られることにより、圏域を訪れるサイクリストの増加、ひいては交流人口の増加が見込まれる。	1,324
	合計	4,624

【成果指標の達成見込み】

目標達成のための具体的な方策	当該事業において、サイクリスト向けのルートマップを圏域内に配布するとともに、データ形式にて各市町公式ホームページへ掲載し、継続的に情報発信を行っていく。
成果指標の達成見込み	当該事業において、豊かな景観や起伏、史跡等、圏域のもつ特異性を活かしたルートマップを策定し周知させることにより、本庄地域は優れたサイクルコースを有する地域であることを圏域内外のサイクリストに認識させていく事で、サイクリストを含めた圏域を訪れる観光客等の増加が見込まれるため、成果指標は達成できると見込んでいる。